

マスク着脱判断のヒントは？ 子どもは？ 福岡・飯塚病院感染症科部長らに聞く

3月12日 西日本新聞



的野多加志部長

政府の新型コロナウイルス感染症対策の方針が改定され、マスク着用が13日から「個人の判断」に委ねられる。日常生活でマスクの着脱を判断するヒントを、福岡県飯塚市の飯塚病院感染症科の的野多加志部長に聞いた。（聞き手は長松院ゆりか）

■飯塚病院感染症科 的野部長

—なぜこのタイミングで、マスク着用の基準が緩和されたのか

コロナに感染した場合、重症化するリスクが高い高齢者のワクチン接種率（3回）が全国で9割を超え、感染者を治療するための内服薬の供給も安定してきたからと考えます。

昨年8月ごろの第7波では、県内でも感染者数が爆発的に増え、過去最多に上りました。感染者数が多いので死亡者数が増えていることが注目されましたが、実は死亡率を見ると下がっています。

つまり、感染しても重症化の予防と治療が徐々にできるようになったと言えます。この現状を受け、今のタイミングでの判断になったと思います。

—日本は海外に比べて、マスクを外すことについて慎重に見える

皆さんの中には、「既にマスクをしていない国もあるのに、なぜ日本はこんなに遅いのだろう」と思う方もいるかもしれませんが、それは日本が世界の中でも高齢化が特に進んだ国だからです。

感染対策として最も有効とされるのはマスクの着用と飛沫（ひまつ）が飛ばない距離を保つことです。感染したら重症化するリスクが高い高齢者の割合が多い日本で、マスクの着用が長期化するのには「人の命を守る」という点で自然と言えます。

—13日からマスク着用は原則個人の判断に委ねられる。着脱を判断する上でのポイントは

まず、医療機関や高齢者施設、混雑した公共交通機関などでは、今までと同じように必ずマスクを着用してください。それ以外で、着脱を判断する時には、マスクの二つの役割を理解しておく役に立ちます。

一つ目は、自分を守る役割です。高齢者や基礎疾患がある人、妊婦など重症化リスクが高い人は、命を守るためにも13日以降も着用を続けましょう。

もう一つは、他人を守る役割です。重症化リスクが高くない人も、自分が感染した場合、それが周囲にどう影響するかを考えることが重要です。コロナはインフルエンザとは違い、感染しても無症状の人がいます。重症化リスクが高い人に会う機会が日常的に多い人や、近い日に会う予定がある人は着用しましょう。

—3年間続いたマスク生活が変わる時期とも捉えられる。これからの新型コロナウイルスとの向き合い方や考え方で重要なことは

マスクの着用を不自由に感じない人は着用したままで大丈夫です。外したい人は、自分と周囲の状況を見極めて外すようにしてください。マスクの着用はあくまで個人の判断で

あり、その背景にはそれぞれの事情があります。他人に自分の考えを強要しない、人権的配慮の意識を持つようにしましょう。

■飯塚病院小児科 田中医師

田中祥一朗医師



政府は、学校において4月から基本的にマスクの着用を求めないとするなど、子どもを取り巻く環境も変わる。同病院小児科の田中祥一朗医師に配慮すべき点などを尋ねた。

ーマスク生活の長期化や習慣化は、子どもの心身の発達にどう影響する

長期的な研究が必要ですが、さまざまな影響が考えられます。その一つが、コミュニケーションの発達です。子どもは大人の表情や口の動きを見て、会話のためのスキルを日常的に学びます。0～3歳は大人の口元を見て言葉を獲得し、4～10歳は表情を見て相手の気持ちを考えることを自然と学習

するとされます。コロナ禍ではその機会が不足しがちで、言葉やコミュニケーションの発達が遅れる可能性が考えられます。

そのほかにも、マスクの着用で息苦しく感じる子どもは口呼吸をするため、口が乾き、口腔（こうくう）内環境が悪化する可能性があります。虫歯になったり、歯並びが悪化したりするリスクが高まります。

ー子どもとの接し方で気をつけることは

重要なのは「子ども目線」です。感染対策をしながら、大人にはない発達への影響にも気を配りましょう。マスクを着用しない場面がこれまでより増えると思いますが、子どもが「外したくない」という意思表示をすれば、それを尊重することが大切です

